

令和 8 年度 第 2 回磐田市地域公共交通会議 議事録

(敬称略)

日時	令和 8 年 7 月 22 日 (水) 11 時 00 分～12 時 00 分
場所	磐田市役所西庁舎 3 階 301～303 会議室
出席者	委員 川口 宗敏 (静岡文化芸術大学名誉教授) 鈴木 喜文 (磐田市議会議長) 伊藤 峻矢 (中部運輸局静岡運輸支局)【代理】 松島 友理恵 (静岡県交通基盤部政策管理局交通政策課)【代理】 薦保 佳伸 (静岡県袋井土木事務所企画検査課長) 鈴木 剛士 (磐田警察署交通課)【代理】 村田 雅俊 (袋井市総務部長) 吉野 博行 (磐田市自治会連合会副会長) 松下 めぐみ (豊田地域包括支援センター長) 平谷 均 (磐田商工会議所専務理事) 寺田 妙美 (磐田市民生委員児童委員協議会副会長) 神谷 剛志 (公募委員) 鈴木 篤人 (遠州鉄道株式会社運輸事業部長) 田中 友親 (遠州鉄道労働組合執行委員長) 根来 晃司 (秋葉バスサービス株式会社代表取締役社長) 大久保 公雄 (浜松バス株式会社代表取締役社長) 内山 貴元 (遠鉄タクシー株式会社運行営業部長) 内野 昌美 (磐田市副市長) 事務局 伊藤自治市民部長 自治デザイン課：山田課長、井上主査、倉谷副主任、西内主事
欠席者	上山 万里子 (磐田北高等学校校長) 中山 國光 (静岡県バス協会専務理事)
傍聴者	なし
議案等	協議事項 ・ 議案第 1 号 掛塚磐田駅線のダイヤ改正について 報告事項 ・ 報告第 1 号 令和 8 年度「交通空白」解消緊急対策事業調査業務について ・ 報告第 2 号 静岡県小学生バス無料デー (ハッピーライド) について

会議記録	(事務局) 令和８年度第２回磐田市地域公共交通会議を開会 ２ 委員紹介 (事務局) 委員名簿のとおり紹介 ３ 会長及び副会長の選出 (委員（商工会議所：平谷）) 会長には、これまでの経験があり、学識経験者で各地の公共交通の事例に精通していて、先の会合でもヨーロッパの交通事情などのご案内をいただきました静岡文化芸術大学名誉教授の川口先生にお願いしたいと存じます。副会長には、地域の実情に精通しており、自治会連合会の副会長でいらっしゃる吉野様にお願いしたいと思います。 (委員一同) 異議なし (会長挨拶) 只今、皆様にご推挙をいただきました静岡文化芸術大学の川口宗敏でございます。 当会議は、地域交通の確保等について、道路運送法に基づく地域公共交通会議として協議する組織であり、静岡県生活交通確保対策協議会の分科会としても、協議会の要請する事項について協議する機関です。 この会議は、市民の立場に立った議案協議を行いたく、会の円滑な進行に努めたいと思いますので、ご協力をお願いします。 ４ 説明事項 (1)「地域公共交通計画における数値目標について」 事務局説明 (委員) 質疑なし ５ 協議事項 (1)議案第１号 掛塚磐田駅線のダイヤ改正について (事務局) 資料に沿って説明
------	---

	(委員) 時刻表の変更は、利用者の利便性が高まる良い変更だと感じる。ただ、8月の夏休みの時期に変更するということで、一学期の間は大変苦労した高校生が沢山いたのではということを考えると、JRの3月半ばの変更の後、年度末で大変かもしれないが、年度初めに変更できれば利用者が苦労せずに済んだのではないか。また今年度末にもJRの時刻変更があれば、迅速に変更できるよう検討いただきたい。 (委員) 乗り換え時間の3分を確保するためということでしたが、3分はなかなか大変だと考える。学生の3分と高齢者の3分では全くレベルが違うのではないか。最低ラインを3分ということで設定しているが、実際に職員が豊田町駅からバス停に行くのに通常どおり歩いた場合、急いだ場合などを試して乗り換えが確実に間に合うのかを確認したうえでの3分なのか。最低が5分ではなくなぜ3分なのかについて説明してほしい。 (事務局) 3分というのは運行事業者と協議したうえで最低限の時間と考えて設定した。補足説明として、補足資料には発の時間を掲載しているが、実際にはバスが到着してから発車するまでの時間もあるため、乗り換え時間としては少なくとも3分以上は確保できている。とつか系統の時刻表には、豊田町駅の欄にバスの発着の時間を掲載している。 どうして3分かということに関しては、運行事業者の知見や運行状況を踏まえて3分で設定した。 (委員) 質疑なし 【決議】 承認（委員 18 名中 18 名合意） 6 報告事項 (1)報告第1号 令和8年度「交通空白」解消緊急対策事業調査業務について (事務局) 資料に沿って説明 (委員) 実際の実証運行が12月の1カ月間ということで、スケジュール上仕方が
--	---

	ないが、実証期間が短いと実際に利用できる人、それを求めている人たちとマッチできるのか、気が付いた時には終わっていないか。市民の立場からすると、せっかく実証を行ってもその効果を十分に把握できないまま終わってしまう可能性が高いのではないかと感じている。他の地域でも、1年間で終了するが、十分な情報が得られずに翌年も実施するという地域も複数ある。 今回は、来年度に公共交通計画計画の見直しもあるため、それに向けて効果的で有意義な情報を出来るだけ集めることが今回の実証にとって大切なことではないか。既にあるデマンドサービスの拡充なので、比較的馴染みがあり、効果が掴みやすい傾向があるとは思いますが、一般の市民に実証実験で変わった部分が伝わり、効果が感じられるように広報の仕方などを、是非これまで以上に工夫いただきたい。 (委員) 10 ページ下部のスケジュールの今後の方針等作成のところで、実証運行の後にアンケートを実施する予定はあるか。 (事務局) 実証運行で利用された方にその評価をしていただくアンケートという認識でよろしいか。その件については、評価をするために何かしらの方法でアンケートが取れればと考えている。 (委員) 是非お願いしたい。 (委員) 交通空白の中でデマンドタクシーに着目されたということで、利用者は高齢者がかなり多いと現場の経験からも実感している。その中で、ヒアリング調査でアンケートとワークショップを行うとのことだが、会場まで足を運ぶことが難しい高齢者の声をどのように拾う予定か。車に乗っている方だと、移動に困っているという声がなかなかつかめないところがあるため、高齢者の声をどのように拾っていくのか伺いたい。 (事務局) 高齢者の声をどのように拾うかという点は、現在プロポーザルで委託業者を選定しているところになる。委託業者の提案によって、どの地区でどのようにワークショップを行うかは今後詰めていく予定だが、現状デマンドを利用しているのがほとんど高齢の方なので、そういった利用者の声になるべく拾えるようにしたいと考えている。
--	--

	(委員) デマンドタクシーを利用することができるのは元気な高齢者になる。デマンドタクシーが使えない方は、働いている若い世代の方が仕事を休んで送迎しており、そういった事が現場ではかなり起こっている。他の施策にもつながることだと思うので、是非高齢者の声を拾っていただきたい。 また、高齢者は電子フォームで答えることができないのでアナログな方法も含めて検討をお願いしたい。 (委員) 乗合率目標を 2.0 人/台としているが、現状 1.7 人/台からすると 0.3 人/台の差はかなり大きいのではと感じており、交通空白を解消するためにこの目標を達成しないと大きな影響が出てくるのか、その辺りをお聞きしたい。 (事務局) 目標の設定に関しては、交通空白の解消を目的に行うものではあるが、現状市民の声として需要があることからこの実証実験を行う。そのため、収支率などの課題解決ができるように目標は高めの 2.0 人/台で設定した。 (委員) 経費や収支を考えることは大変重要だと考えているが、その場合目標は 2.0 人/台でなくても現状を上回ればよいのではと感じる。 (委員) 2.0 人/台が引っかかっていて、備考に県からの補助率が維持できるようにと記載しているが、県からの補助率を維持することと、乗合率を 2.0 人/台にすることは関係があるか。関係があるなら、2.0 人/台を達成する具体策を出さなくてはいけないわけで、2 人以上でないといけないとなれば、誰でも 2 人以上にする。今までと同じようにやっていて、ただ数値だけ 2.0 人/台にしているのか、県の補助率と関係があるのか教えてほしい。 (事務局) 県の補助金の補助率と乗合率は関係がない。県の補助率については、磐田市の公共交通計画上のデマンドの位置づけで、2 ページの上部に書かれているデマンド型乗合タクシーの役割に「主に高齢者の通院や買い物等の必要手段として確保する」と書かれているが、今回この実証運行で通勤通学で学生等が使っている実績があった場合に、今後この会議の中でデマンド型乗合タクシーの位置づけにそのことを加えることで、確定ではないが県の補助率が維持できるかどうかというところである。
--	--

	乗合率の目標達成が達成できるかどうかで県の補助率に関するものではない。 (委員) すると、先ほど別の委員から質問があったように、現行を上回ればいいのか。 (事務局) 現行を上回ればいいのかということではあるが、短い期間の実証運行になることから、少し下振れる可能性もあるため、乗合率2人を目指して周知をはかっていきたい。 (委員) 是非、答弁であったように周知をし、2人以上でできるだけ使いたろうという周知をしていかないと乗合のタクシーということが薄れてしまっているため、乗合というところをしっかりと周知して乗合率を上げてほしい。 (2)報告第2号 静岡県小学生バス無料デー(ハッピーライド)について(事務局) 資料に沿って説明 (委員) 質疑なし 7 閉会
--	---